

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	カラフルリンク九条教室		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 11日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子ども一人ひとりの発達段階や特性に合わせた個別支援計画を作成し、オーダーメイドの療育を提供。	自己肯定感を育むために、小さな達成感を積み重ねることを大切にしています。子どもが「できた!」と感じられるよう、活動の進め方や支援方法を工夫し、褒めるタイミングや言葉かけを意識的に行っている。また、子どものペースに合わせたサポートを行い、無理なく挑戦できる環境を整えている。	・ケースごとの振り返りを強化し、支援の質の向上を図る。
2	・子どもの得意なことを伸ばしながら、課題に対して無理のない形でアプローチ。		・スタッフの専門性向上のための研修の充実。
3	・遊びを通じた療育で、興味関心を引き出しながら楽しくスキルアップ。		

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・評価指標を整備し、支援の成果をより具体的に把握できるようにする必要がある。	業務の中で、研修や振り返りの時間を十分に確保しにくい。	スタッフ間で学んだことを共有し、現場で活かせる仕組みを作る。
2	・保護者とのコミュニケーションの頻度や方法をさらに工夫する必要がある。特に、療育の進捗や家庭での対応方法について、わかりやすく伝える工夫が求められる。	保護者の関わり方やニーズが多様で、一律の方法では対応しづらい。また、保護者向けの資料やワークシートの準備が不十分で、具体的なサポートが不足している。	保護者からの質問や相談に迅速に対応できる体制を整える。
3	・スタッフの知識やスキルを継続的にアップデートする必要がある。	スタッフの経験値のばらつきがあり、支援の質を一定に保つための指導体制の強化が求められる。	外部講師を招いた研修や、最新の発達支援に関する学習機会を増やす。